

平成28年度国立天文台研究集会開催報告書

平成28年8月22日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな)	かしの だいち
			柏野 大地
	所属・職	名古屋大学・博士過程後期課程3年	
	電話	052-789-2842	E-mail daichi@nagoya-u.jp
研究集会名	第46回天文・天体物理若手夏の学校		
開催期間	平成28年7月26日 ～ 平成28年7月29日		
開催場所	長野県 信州・戸倉上山田温泉ホテル圓山荘		
参加人数	335名 (学生318名・招待講師17名)		
研究集会の概要	天文・天体物理若手夏の学校 (以下、夏の学校) は天文学・天体物理学を研究する大学院生及び若手研究者を対象とした研究集会であり、今年で46回目の開催となりました。研究発表は分野ごとに「重力・宇宙論」、「宇宙素粒子」、「コンパクトオブジェクト」、「銀河・銀河団」、「太陽・恒星」、「星間現象」、「星形成・惑星系」、「観測機器」の8個の分科会に分けられ、口頭講演とポスター講演が行われました。参加者数は大学院生318名、招待講師17名の計335名、講演数はa講演 (口頭) 139、b講演 (口頭+ポスター) 28、c講演 (ポスター) 128となりました。 発表セッションは、分科会ごとに選出された大学院生で構成される座長団を中心に運営され、夏の学校事務局がこれをサポートします。座長団は発表要旨を元にした講演の振り分け及び招待講師の決定も行います。 今年度の新たな試みとして、口頭セッションと並行して分科会別ポスターセッションの枠を設け、活発な議論が展開されました。また、参加者の意欲向上を目指し、優秀な口頭講演者、ポスター講演者にはそれぞれオーラルアワード、ポスターアワードの授与を行いました。 本夏の学校では、学生による研究発表とは別に、全参加者対象の全体企画を行いました。「大学院生のための英語科学論文読み方セミナー」と題して、公益社団法人日本工業英語協会の講師を招き、英語科学論文を読むための要点・スキルについてご講演いただきました。 今年度は、経費面や交通の便が優れているといった利点、参加者からの高い人気を考慮し、一昨年・昨年と同じ長野県のホテル圓山荘を貸し切り行いました。これにより、過去のノウハウや反省点を活かし、会場側との打ち合わせ・予算の見積もり、当日の運営をスムーズに行うことができました。さらに、会場の設備を把握した上でセッション枠の増設という新たな試みも行うことができ、研究会をより一層洗練することができました。		

研究集会の成果	今年度の天文天体物理若手夏の学校も、例年同様に300を越える講演が行われ、いずれの分科会においても活発な研究報告と議論が行われました。今年度は特に、近年増加するポスター講演に対応するため、従来からある参加社全体を対象にしたポスター発表の時間枠に加え、分科会別のポスター発表の時間を導入しました。従来の時間枠ではどうしてもポスター会場が混雑してしまい、参加者が落ち着いて議論をすることが難しい状況にありましたが、分科会別の時間を設けることでこれらの問題を緩和し、ポスター発表をより有意義なものにする。参加者アンケートにおいても、分科会別ポスターセッションを高く評価する声は多く、研究会としての質の向上に繋がったと考えています。 本年度は17名の各分野の一線で活躍する招待講師を招き、およそ1時間の講演を行って頂きました。各分野の最新の研究成果から研究者人生を振り返るようなお話まで講演内容は多岐に渡り、大学院生ら参加者は大先輩方から多くの知見と刺激を得ることができました。 全体企画「大学院生のための英語科学論文読み方セミナー」では、公益社団法人日本工業英語協会から講師を招き、英語論文を読むための要点・テクニックについてご講演いただきました。参加者のほとんどが全体企画にも参加し、今後の研究に直接的に役に立つスキルを学ぶことができました。 伝統を踏襲し滞在型研究会（合宿形式）として行われたことにより、参加者の間に自然と一体感が生まれ、セッションでは活発に質問が飛び出し、食事時間やセッションの合間にも活発に議論が行われたことが印象的でした。多くの参加者が他大学の学生とのつながりを築くことができたようで、今年度で46回を迎えた夏の学校の開催趣旨は十分に達成されたと考えられます。 一方で、本夏の学校ではここ数年、参加者人数と開催規模の関係から、全ての口頭講演希望者の意に添うことができないなど、簡単には解決できない問題を抱えています。これらの問題を放置せず、夏の学校が若手大学院生・研究者、ひいては天文・天体物理学コミュニティ全体にとって、より良いものになるように継続的に議論していく必要性を感じました。 尚、国立天文台からご支援頂きました約50万円は全額、参加学生の旅費補助に充当させていただきました。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	本年度夏の学校期間中において、京都大学を中心とする来年度の夏の学校事務局に引き継ぎを行いました。毎年の夏の学校でできる試みは小さなもの（アワードの分科会別ポスターセッションの導入など）ですが、夏の学校をより良くしていく為にはどうすればよいか、各年度の事務局を中心に継続的に議論されています。しかし、同時に規模の増大に伴い、事務局の精神的・時間的負担は増しており、局員の負担をどのように抑えていくかが大きな課題でもあります。それでも、本年度で46回目を迎え、また来年度、再来年度の事務局も準備を行っているのは、ひとえに主体である学生の多くが夏の学校の重要性を強く感じているからに他なりません。夏の学校の開催趣旨をご理解いただき、これまで多大なご支援を貴天文台から頂きましたこと、誠に感謝いたします。引き続き夏の学校の重要性を認めていただき、継続的なご支援を頂けますようお願い申し上げます。